

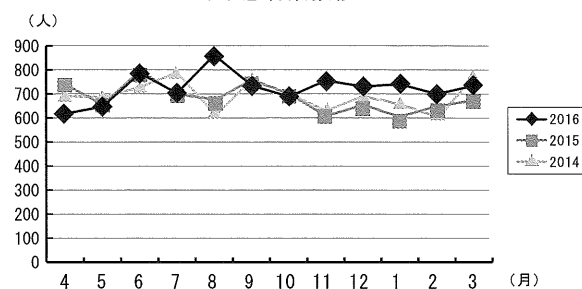
2016年度も整形外科は常勤医師1名で診療を行った。当科では週3回の外来を行っており、外来の延患者数は8,805名であった。(図1) 入院延患者数は10,114名であり、どちらも前年度を大きく上回る結果となった。(図2) 入院患者の主な疾患は大腿骨骨折・胸腰椎圧迫骨折が例年同様多数を占めており、前年度よりも増加した。上肢や下肢骨折の患者は前年並みであった。

当院の診療圏である三角・上天草地域は25年後の日本の姿といえるほど過疎化・超高齢化が進んでいる。平均寿命が男性80.9歳、女性87.1歳となった長寿社会には多くの課題がある。入院や介護を受けずに健康で自立した生活を送ることのできる健康寿命は、平均寿命より男性71.1歳、女性74.2歳と10年以上短くなっている。そこで整形外科では、高齢者が自分の足で歩き続けるため、また介護や医療が必要な10年を支える若者世代の負担を減らすため「ロコモティブシンドローム(略してロコモ)」対策に取り組んでいる。

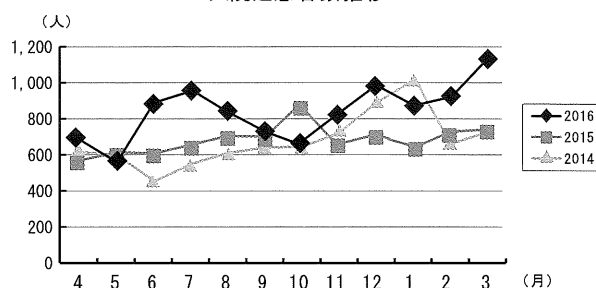
ロコモの原因には、運動習慣がない・痩せすぎ・肥満などの生活習慣、加齢による筋肉の衰え(サルコペニア)、関節・背骨の変形、・老化がある。予防の観点からは、出前・健康講座による運動習慣の意識づけを行い、既に骨粗鬆症や変形性関節症等を発症している患者に対しては、必要に応じて加療・手術を行っている。

次年度も地域唯一の整形外科として、充実した医療を提供できるよう取り組んでいく。

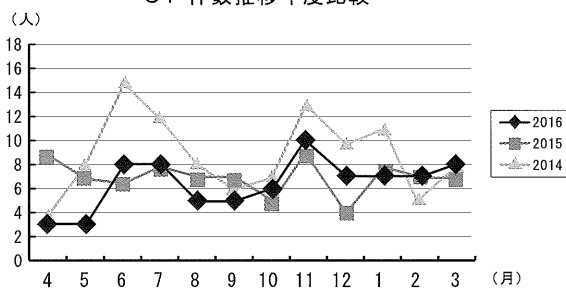
(図1) 外来患者数推移



(図2) 入院延患者数推移



(図3) -1 O P 件数推移年度比較



(図3) -2 主な手術件数月別推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
観血的骨接合術	1	2	5	7	2	3	4	3	6	6	7	4	50
人工膝関節置換術(TKA)	1	1					1	1		1			5
抜釘術	1				1	1		2					5
人工骨頭置換術				1		1	1	1					4
徒手整復			1										1
摘出術			1										1
手根開放術								1	1				2
関節形成術								1					1
腱鞘切開術			1										1
四肢切断術					1								1
骨髓炎手術					1								1
関節内骨折観血の手術								1					1
鏡視下半月板切除												1	1
合計	3	3	8	8	5	5	6	10	7	7	7	8	77